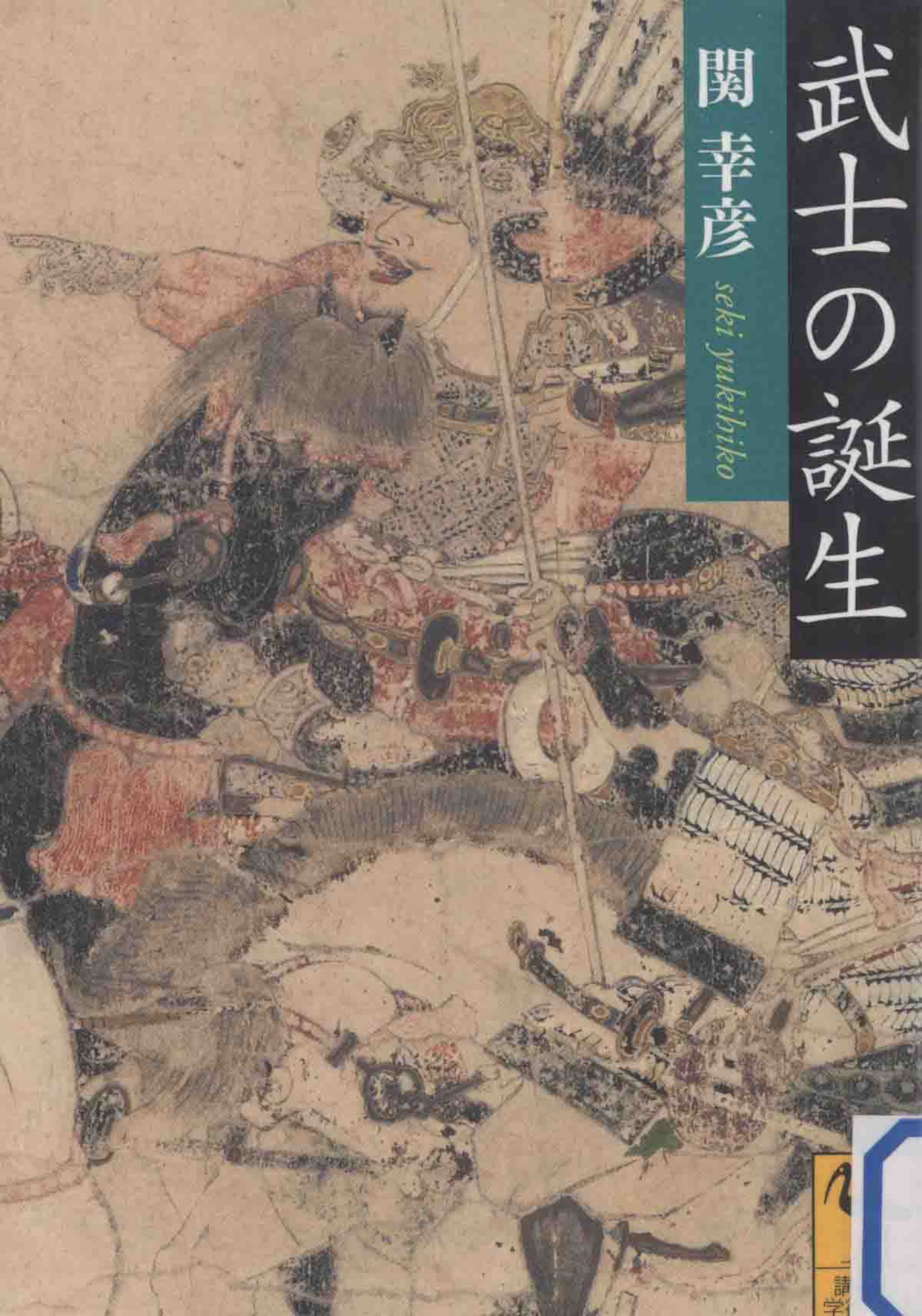


武士の誕生

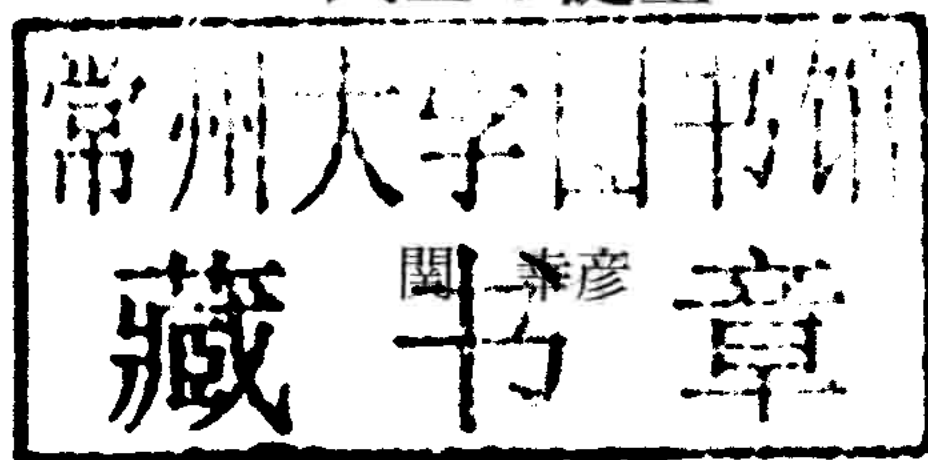
関幸彦

seki yukeihiko



講談社

武士の誕生



講談社学術文庫

関 幸彦（せき ゆきひこ）

1952年北海道生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻後期博士課程修了。日本大学文理学部教授。主な著書に『北条政子』『東北の争乱と奥州合戦』『百人一首の歴史学』『鎌倉殿誕生』『その後の東国武士団』『承久の乱と後鳥羽院』ほか。



定価はカバーに表示してあります。

ぶ し たんじょう
武士の誕生

せき ゆきひこ
関 幸彦

2013年1月10日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 豊国印刷株式会社

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Yukihiro Seki 2013 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛をお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。〔R〕（日本複製権センター委託出版物）

ISBN978-4-06-292150-3

目次

武士の誕生

はしがき……………3

序章 ある武士団のものがたり——烟田一族の盛衰……………15

中世武士団烟田氏の世界へ 烟田氏のルーツ 坂東の原風景 在地領主の風貌 武士の出生証 領主としての武士 軍忠状が語るもの 戦乱をいかに生き抜くか 戦場からの手紙 中世武士の二つの側面 戦士と領主

I 怨 乱——蝦夷問題の遺産……………48

三善清行の防衛白書 蝦夷問題と新羅問題 坂東とは何か 〴〵その地勢的条件 兵站基地としての坂東 兵站基地から 俘囚基地へ 蝦夷戦争の後遺症 元慶の乱を考える 将種・兵家の登場 新羅海賊問題とは 藤原保則と清原令望 寛平の新羅侵寇事件 蝦夷——俘囚問題の影響 軍事官僚の登場 蝦夷戦から学ぶ 律令軍事システムの特徴 騎兵と

II

反乱——坂東の夢……

歩兵 律令軍制の遺産／＼弩について 機動性の重視 武の連鎖／＼群党の蜂起 僞馬の党 王威の移植／＼軍事貴族の登場 王威の再生 親王任国の意味 利仁將軍のイメージ 史実と伝説のはざま 軍事貴族としての利仁

「兵」の時代へ 王朝国家と軍事貴族 兵の存在証明／＼「兵威を振いて、天下を取る」「武の力」への確信 武家の祖型としての将門 平将門の乱／＼その発端と経過 「新皇」の誕生 将門と道真 坂東独立国家構想 将門の王城 将門の武力を考える 地方名士、将門 乱の果実／＼「兵の家」の誕生 将門の遺産／＼平維茂対藤原諸任 坂東平氏の繁栄 将門路線の継承者／＼平忠常 『今昔物語』版、平忠常の乱 都の武者の血筋 平忠常の乱／＼その発端と経過 忠常の乱の謎 坂東平氏の内紛／＼良文流対貞盛流 「先祖の敵」／＼忠常対維幹 「亡国」となった坂東／＼将門と忠常

III

内 乱——棟梁の時代……

の差 刀伊の入寇と事件と経過 合戦形態の変化と寛平新羅戦との比較 「無止武者」たち 中世武士の萌芽 分化する兵たちの世界 中央か地方か 兵たちの意識 兵世界の新秩序 王朝軍制とは 軍事力はどう動員されたのか 在地領主の誕生

兵から武士へ 国衙と武士 前九年合戦とその発端と経過 名族の登用 清原氏と源氏 坂東の精兵と戦士集団の誕生 頼義と清原氏の連合軍 後三年合戦とその発端と経過 義家の従者たち 棟梁と在地領主 伝説の創造 「武士道」以前 棟梁の誕生と王朝的武威の創出 東国との因縁と源氏神話の原点 義家以後と源氏の内紛 義朝と坂東武士団と大庭御厨事件 「源家相伝の家人」の証 相馬御厨と千葉氏 義朝への臣従 「大名」と「小名」と武士団の構造 武士団の三類型 武蔵武士団の分布 地下からの証言と兵

器工房をさぐる 源平争乱の一齣 坂東武士の強さの秘密
「内乱」の一〇年 頼朝の奥州合戦について 「征夷」の系
譜と「日本国」の創出 坂東から関東へ 将門か頼朝か
武のビッグバンと王朝的武威と在地的武威

終章 武士の発見……………

271

坂東の履歴 中世とは何か 「武士の発見」あるいは「日
本の発見」 栄光の代名詞と「青い鳥」としての封建制
二つの封建制 「幸福なる変則」 「青い鳥」のゆくえ も
う一つの「発見」へ ネガとしての武士観 領主制論と職
能人論のはざまと地域論の再生

参考文献……………

あとがき……………

学術文庫版あとがき……………

312 309 301

武士の誕生

関 幸彦

講談社学術文庫

はしがき

与えられたテーマは「武士の誕生」。まことに簡略である。問題の本質はその形成の過程にあるとの理屈を信ずれば、武士とは何かを考えるてだてが、この平凡な書名には宿されている。当然ながら、本書の照準には鎌倉の幕府がはいる。射程はどうか。武士が誕生する道筋という点で、平安時代が軸となろう。このあたりは予想どおりのはずだろう。そうなれば、問題設定もおのずと限定されよう。将門・純友の天慶の乱から筆をおこし、平忠常の乱、さらに前九年・後三年の役、さらに保元・平治の乱、そして平氏政権をへて源平争乱という流れのはずである。

多くの概説書に示されたコース・メニューということになる。だが、この標準のお品書きで出された料理はいささか食傷気味で、はなはだつまらない。食指が動かない。どうすればよいのか。刺激的な概説書に仕立てるための算段が必要となる。

そのために、切り口を少し変えようと思う。東国・坂東の地域史を射程にすえての武士論である。当然ながら純友の乱や平氏政権、あるいは保元・平治の乱に代表される中央の政争の問題は、埒の外ということになる。これは軽重云々ではない。地域史に立脚し、これへの

回帰のなかで、東国からみた武力の問題を考えたかったからである。

ただし、東国一元論の弊におちいることはなんとしてもさげたい。武士についての議論が、地域史の文脈で普遍性をもつ課題となるためにも、このことの確認は大切だろう。本書で、東国や坂東を云々しつつも、九世紀の新羅問題や一一世紀の刀伊との入寇にゆうこうに材をとったのは、そうした理由もある。西国さいごくとの比較も場合によつては必要だからだ。東国・西国の両者に共通の武力の課題を考えることで、坂東の史的な特質もきわだつのではないか。そうした判断によつてゐる。

それはそれとして、坂東という地域の履歴を武士問題からひもとく場合、幾つかの視点が必要となろう。大づかみながら九世紀から一二世紀までの歴史を、ここでは怨乱おんらん―反乱―内乱という表現でくくりたいと思う。種々の議論もあろうが、武士がみずから坂東に樹立した政権の来歴を問う試みの一つ、と考えていただければと思う。三つの語にふくまれた意味については、本書のなかでおいおい説明したい。こうした視点に立ち、「武」の遺伝子がいか
に坂東の地に組み込まれたのかを問い、そこから武士の誕生を読み解くことが、本書の主題となる。

近年、武士についての議論は活況を呈し、通説が動揺している。有力農民が成長し、武士へと転身するという構図は、今日では通用しなくなっている。そうしたなかで、どのようなプロセスをへて武士が誕生するに至ったのか、あらためて問われており、種々の議論が提

起されている。いわば、学説の戦国時代とでもいうべき状況だ。学問の活性化という面では結構なことだが、基本への回帰もさげばれている。

細分化する研究を網羅し、大局的に叙述する。概説書の要諦ようていだが、いうほど容易ではない。昨今の武士論や軍制史論を読めば、その感がいつそう強い。そんなことを考えつつ本書を執筆した。

目次

武士の誕生

はしがき……………3

序章 ある武士団のものがたり——烟田一族の盛衰……………15

中世武士団烟田氏の世界へ 烟田氏のルーツ 坂東の原風景 在地領主の風貌 武士の出生証 領主としての武士 軍忠状が語るもの 戦乱をいかに生き抜くか 戦場からの手紙 中世武士の二つの側面 戦士と領主

I 怨 乱——蝦夷問題の遺産……………48

三善清行の防衛白書 蝦夷問題と新羅問題 坂東とは何か 〳その地勢的条件 兵站基地としての坂東 兵站基地から 俘囚基地へ 蝦夷戦争の後遺症 元慶の乱を考える 将種・兵家の登場 新羅海賊問題とは 藤原保則と清原令望 寛平の新羅侵寇事件 蝦夷——俘囚問題の影響 軍事官僚の登場 蝦夷戦から学ぶ 律令軍事システムの特徴 騎兵と

II

反 乱——坂東の夢……

109

歩兵 律令軍制の遺産／＼弩について 機動性の重視 武の連鎖／＼群党の蜂起 僞馬の党 王威の移植／＼軍事貴族の登場 王威の再生 親王任国の意味 利仁將軍のイメージ 史実と伝説のはざま 軍事貴族としての利仁

「兵」の時代へ 王朝国家と軍事貴族 兵の存在証明／＼「兵威を振いて、天下を取る」「武の力」への確信 武家の祖型としての将門 平将門の乱／＼その発端と経過 「新皇」の誕生 将門と道真 坂東独立国家構想 将門の王城 将門の武力を考える 地方名士、将門 乱の果実／＼「兵の家」の誕生 将門の遺産／＼平維茂対藤原諸任 坂東平氏の繁栄 将門路線の継承者／＼平忠常 『今昔物語』版、平忠常の乱 都の武者の血筋 平忠常の乱／＼その発端と経過 忠常の乱の謎 坂東平氏の内紛／＼良文流対貞盛流 「先祖の敵」／＼忠常対維幹 「亡国」となった坂東／＼将門と忠常